

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都

●地域における現状・課題

- ・ 地域の体育・スポーツ協会、競技団体及びその他のスポーツ団体及び各分野の文化芸術団体等と連携し、学校と地域が協働・融合した形での地域のスポーツ・文化芸術環境の充実を図る。
- ・ 都内の各区市町村の実態に応じた地域連携・地域移行の在り方について実証事業を通じ検証する。

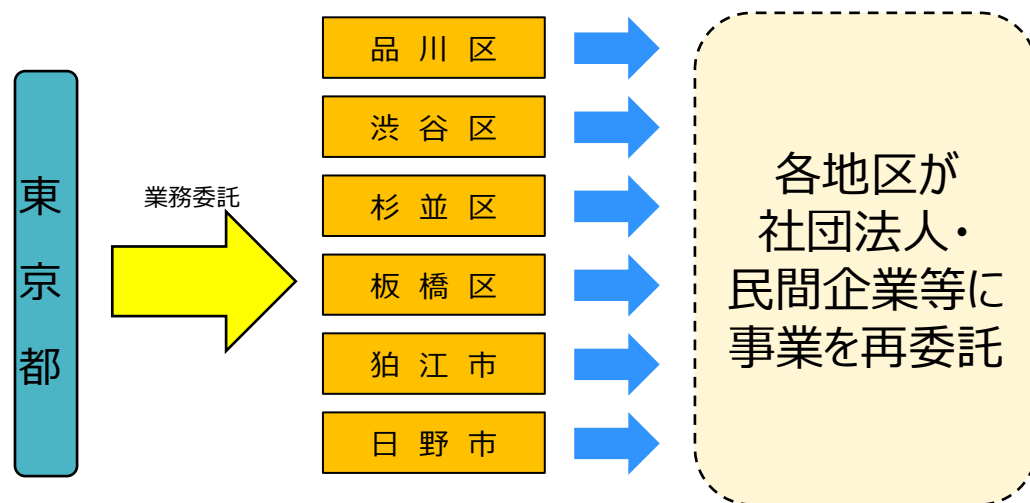
●取組事項の概要

- ・ 都内4区2市と委託契約を締結し、部活動の地域移行に向けた実証事業を実施する。
- ・ 事業を受託した6地区は、社団法人や民間企業と再委託契約を締結し、地区内における部活動地域移行の取組を進める

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・ 部活動検討委員会において、運動・文化担当部局、区市町村教育委員会関係者、学校関係者（中学校・高等学校・特別支援学校）、スポーツ・文化芸術団体関係者、大学関係者、大会主催団体関係者など、幅広い関係者を委員として、東京都の公立学校に通う全ての生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の構築に向け、検討を行った。
- ・ リーフレットやニュースレターの発行、各種研修や大学への協力依頼等により、指導者確保に努めた。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都品川区

生徒の声アンケート

＜部活動や地域でのスポーツ・文化活動に関するアンケート 令和4年 9月＞

教職員の声アンケート

＜兼業・兼職による部活動に関するアンケートについて 令和5年 3月＞

●地域における現状・課題

＜学校部活動の現況＞今年度品川区では、様々な機会をとらえて生徒・教職員・地域保護者から意見集約を行ってきた。

- 1 生徒の声アンケートを実施した結果、部活動に加入しているほぼすべての生徒が現在の部活動に満足している。一方で、約6割の生徒が現在の部活動とは別に、部活動にはない興味がある活動ができた場合、参加したいと考えている。また、合同部活動や地域での活動機会を増やした場合、約75%の生徒が参加したいと考えている。
- 2 教職員の声アンケートを実施した結果、区内の教職員の2割程度が、教員として働いている間は部活動指導を続けたいと考えている。一方で、約7割の教職員が有償・無償を問わず、土・日の部活動の兼業・兼職を希望しないと回答している。
- 3 地域・保護者からの声：品川コミュニティ・スクールを推進し、地域とともにある学校づくりを進めている中で、各学校で定期的に開催している校区教育協働委員会では、部活動が子どもたちの成長の場となっていることを確認している。

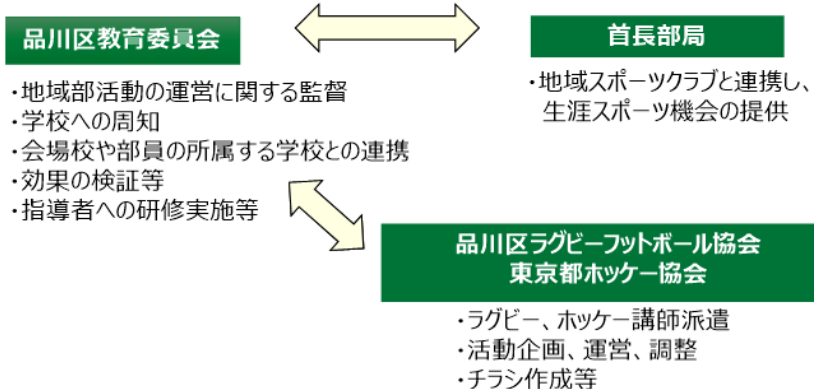
●取組の成果、特に工夫した点等

- ・生徒の声を聞いたこと：部活動の地域移行について、品川区や品川区教育委員会への期待や配慮してほしいことについて各校の生徒会長にヒアリングをした。
 - ・品川区教育委員会が一般社団法人品川区ラグビーフットボール協会および一般社団法人東京都ホッケー協会と連携し、同会より指導者を派遣した。
- 上記2団体に委託することで、質の高い指導を行うとともに専門的な観点から安全に配慮した活動を行えた。

●取組事項の概要

- ・参加児童・生徒の保険への申込、契約
- ・参加児童・生徒の保護者への品川区地域スポーツクラブ活動体制整備事業に関する説明会の開催
- ・周知用チラシの作成
- ・事業の実施に必要な用品の提供
- ・事前事後アンケート実施
- ・連絡体制の構築
- ・活動中の怪我への保障・対応
- ・事故等の対応マニュアル作成
- ・委託者への報告、連絡、相談

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区長村運営型（競技団体連携型）
- (2) 運営主体：一般社団法人 品川区ラグビーフットボール協会
一般社団法人 東京都ホッケー協会
- (3) 種目：ラグビー ホッケー
- (4) 指導者の主な属性：【ラグビー】・SCJ（Sports Coaching Japan）認定コーチディベ
ロッパLv1 ・JRFU A級コーチ ・JRFU B級コーチ
【ホッケー】・元日本代表・日本ホッケー協会アスリート委員会委員長 ・ジャッジ競技役員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：ラグビー：月9回程度 ホッケー：月4回程度
- (6) 主な活動場所：複数会場で実施
- (7) 主な移動手段：徒歩・電車・バス
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：3,000円/年（保険含む）
- (7) 1人あたりの保険料：生徒1人あたり：800円/年 年指導者1人あたり：1,850円/年

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都渋谷区

●地域における現状・課題

【現状】学校によって設置されている部活動の種目や数が異なっていたり、学校によっては1つの学校で1チームの編成ができないことがある。

【課題】部活動の顧問教員は、平日の活動に加え、土日の大会や練習試合への引率等、多忙なスケジュールを抱えている。特に教員自身が経験のない競技の顧問となった場合には、技術指導が十分ではなく、効果的な指導が行われないケースもある。教員の負担を軽減するとともに、経験豊富な指導者の確保が必要になる。

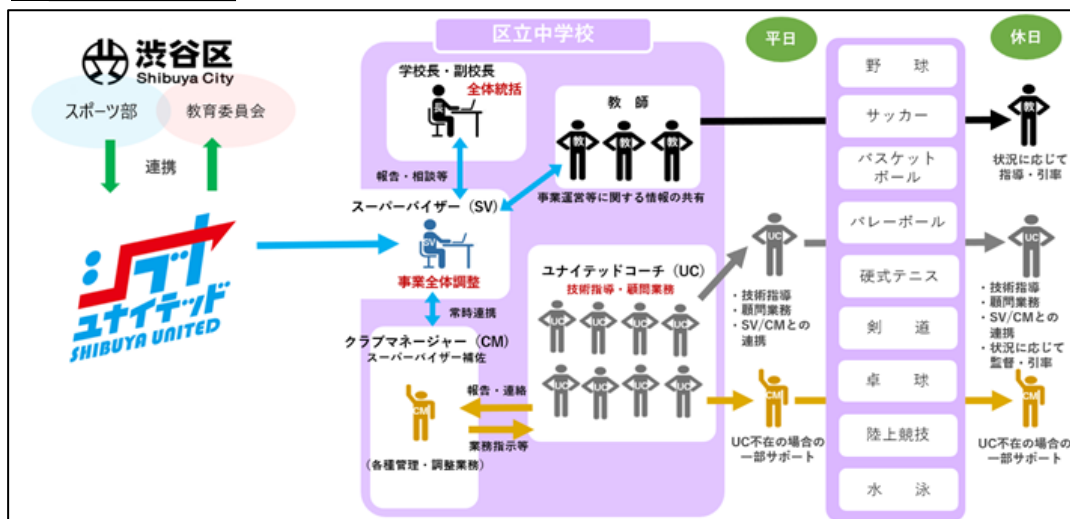
●取組事項の概要

既存運動部活動の地域移行を推進する、「部活動地域連携モデル校」の取組を実施。渋谷ユナイテッドがスーパーバイザー、クラブマネージャー、ユナイテッドコーチを配置し、平日・休日における運動部活動が円滑に、かつ安全に実施できるように支援を行う。教員の負担を軽減するとともに、各競技において専門的な指導者を配置することで、生徒の技術向上等、充実した活動を促進させる。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・区で設立した一般社団法人渋谷ユナイテッドが中心となり、質の高い指導者を適切な規模で確保した。指導者は、各種目の専門知識および指導経験を持った人材を採用し、加えて、指導者に向けた研修などを適宜実施。
- ・区で設立した一般社団法人渋谷ユナイテッドが中心となり、既存の体制に配慮しながら、区・学校・指導現場と緊密に連携を図ってきた。関係者が一同に会し、状況や課題を共有する打ち合わせを定期的を実施。
- ・生徒のニーズに適應する種目を設定し、継続的に活動できる機会の確保に取りくんだ。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（任意団体設立型）
- (2) 運営主体：一般社団法人渋谷ユナイテッド
- (3) 種目：バレーボール、バスケットボール、野球、陸上など
- (4) 指導者の主な属性：運営事業者契約コーチ
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月16回
- (6) 主な活動場所：中学校

渋谷ユナイテッドがスーパーバイザー、クラブマネージャー、ユナイテッドコーチを配置し、平日・休日における運動部活動が円滑に、かつ安全に実施できるように支援を行う。教員の負担を軽減するとともに、各競技において専門的な指導者を配置することで、生徒の技術向上等、充実した活動を促進させる。

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都杉並区

●地域における現状・課題

- ・部活動・部員数の減少
- ・勤務時間外の部活動指導による教員の長時間勤務
- ・生徒が希望する部活動種目の多様化

●取組事項の概要

（部活動支援事業・高円寺学園）

- ・民間事業者部に部活動支援業務を委託することにより、専門的な指導者が、全ての運動部活動の指導等を行い、教員が技術指導や大会引率等に携わらなくてもよい環境を構築した。

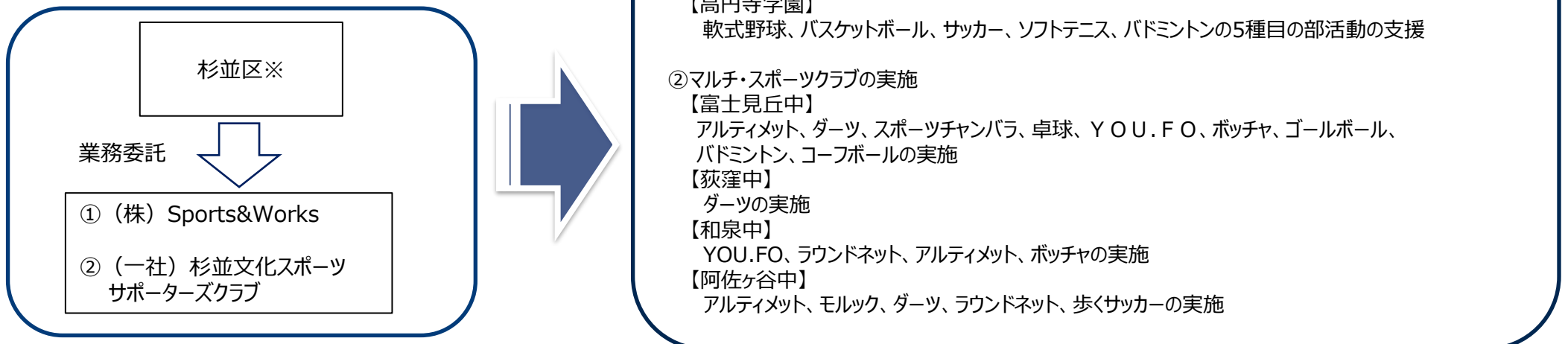
（マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校）

- ・一般社団法人に委託し、新たなスポーツ活動の場として、マルチ・スポーツクラブを実施

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・生徒にとって魅力あるスポーツ活動の実現
- ・部活動を担う教員の負担軽減

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都板橋区

●地域における現状・課題

- 2030年時点で実現したい将来像を設定するため、令和5年度に「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」を策定。
- 地域移行推進ビジョン2030と合わせて改革推進期間である令和7年度までの「板橋区立中学校部活動地域移行実施計画2025」を策定。
- 令和5年度に実践研究モデル事業として、区教育委員会が運営団体となる「いたばし地域クラブ」を立ち上げる。
女子サッカークラブ、eスポーツクラブ、科学技術クラブの3クラブを実施。（実証事業として実施しているのは、「女子サッカークラブ、eスポーツクラブ」のみ）

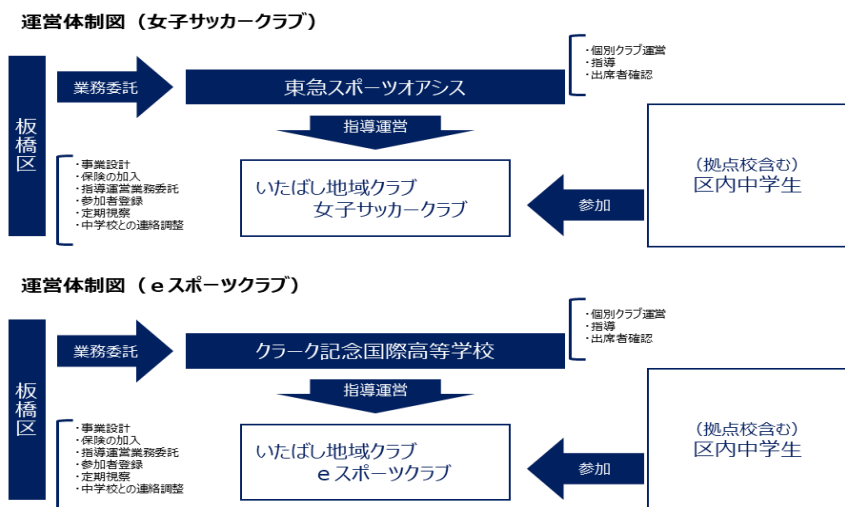
●取組事項の概要

- 「板橋区立中学校部活動地域移行検討会議」を通じて、地域のスポーツ団体等との連携を強化する。
- 技術の習得や向上のみを目的とせず、参加者同士の交流を促進し、主体性を育むことを目的に定期的なミーティングを行うほか、レクリエーション的な活動を取り入れたクラブ活動を運営する。

●取組の成果、特に工夫した点等

- 「板橋区立中学校部活動地域移行検討会議」を通じて、体育協会及び文化団体連合会の委員と意見交換をし、連携を強化することができ、令和6年3月に「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」の公表する。
- 活動を開始した当初は、両クラブとも指導者や生徒同士がコミュニケーションをとれるメニューを多く取り入れてもらい、円滑なクラブ運営ができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- 運営主体：板橋区教育委員会
- 種目：サッカー、eスポーツ
- 指導者の主な属性：民間スポーツクラブ、高等学校
- 1か月あたりの平均的な活動回数：女子サッカー：月4回程度
eスポーツ：月4回程度
- 主な活動場所：女子サッカー：板橋区立上板橋第二中学校旧校舎校庭
eスポーツ：クラーク記念国際高等学校CLARK NEXT Tokyo
- 主な移動手段：徒歩、自転車、公共交通機関
- 1人あたりの参加会費等（年額）：2,400円/年
- 1人あたりの保険料：生徒 約797円/指導者 委託事業者による

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都日野市

●地域における現状・課題

- ・日野市では、令和3・4年度日野市部活動改革プロジェクト事業の取り組みにおいて、学校部活動部活動（運動部）の移行のモデル事業を実施
- [現状] 令和3年度では市教育委員会が主体、令和4年度は地域クラブ主体による運営を行い、新たな地域クラブの在り方の構築を目指している
- ・令和4年度には、本市における持続可能な地域スポーツの目指す姿や運営基準・人材確保・財源確保の検討及び決定する「日野市地域スポーツ連携協議会」を発足

- [課題]
- ① 地域全域の生徒の活動機会確保するための主体となる運営団体・指導者の確保
 - ② 従来の部活動にはない種目など地域のニーズに対応するスポーツ体験機会の確保
 - ③ 主体となる運営団体の運営基準づくり
 - ④ 受益者負の在り方と持続可能な運営を行うための財源確保
 - ⑤ 学校体育施設の活用方法の検討が必要

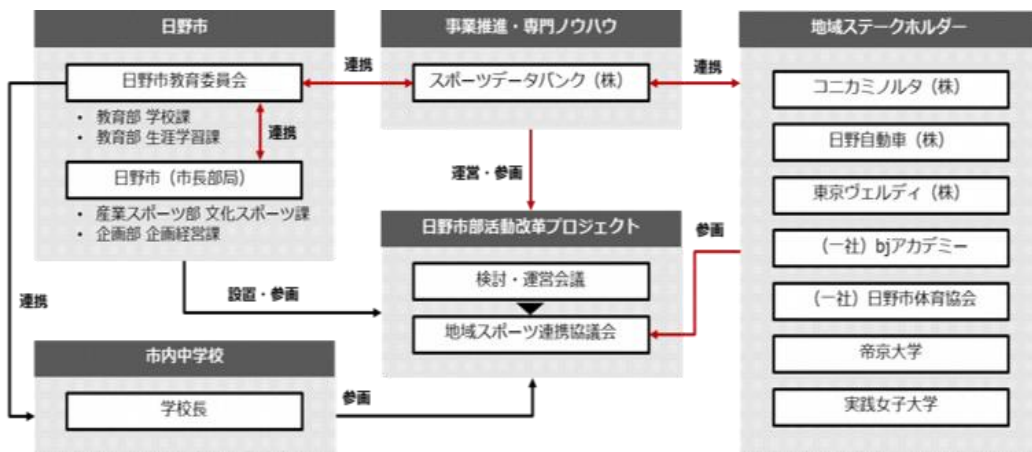
●取組事項の概要

- ・持続可能な地域スポーツ活動を、学校部活動の延長線にない新たなスポーツ環境「日野型地域スポーツ（ひのスポ!）」として、構築を目指している。令和5年度は運営基準・人材確保・財源確保の検討及びこれらの決定をする協議会に参画する地域企業・スポーツチーム・大学・団体などが連携して、「ひのスポ!」を実施した。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・指導者は協議会参画企業・チーム・団体にて地域指導者を活用し、市内全8中学校を会場に10種目程度の活動を実施。運営基準については、活動・価値観を定義するものであり、参加する指導団体が持つべき参加基準、運営基準及び資格基準を定義するため協議会内で議論「認証コード」の素案を作成した。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：競技団体連携型
- (2) 運営主体：東京ヴェルディバレーボールチーム、日野市ソフトテニス連盟
コニカミノルタバドミントン班、東京八王子ビードレインズ
- (3) 種目：女子バレーボール、ソフトテニス、バドミントン、男子バスケットボール
- (4) 指導者の主な属性：民間スポーツクラブ、競技連盟、市内企業、プロスポーツチーム
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月1～2回程度
- (6) 主な活動場所：市内学校体育施設
- (7) 主な移動手段：公共交通機関・徒歩
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：下半期～：800円/種目（保険料相当）
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

東京都狛江市

●地域における現状・課題

- ・市内に4校の中学校があり、それぞれが徒歩圏内である。単独校では競技人数が不足する部活動もあり、合同部活動を実施している種目がある。
- ・令和4年度に「狛江市立学校における部活動の地域移行に関する検討委員会」を設立し、地域移行・地域連携について検討を行っている。
- ・地域クラブ活動としての担い手の発掘、公的負担と受益者負担（保護者負担）の適切なバランスの検討等、地域連携等に向けたさまざまな課題がある。

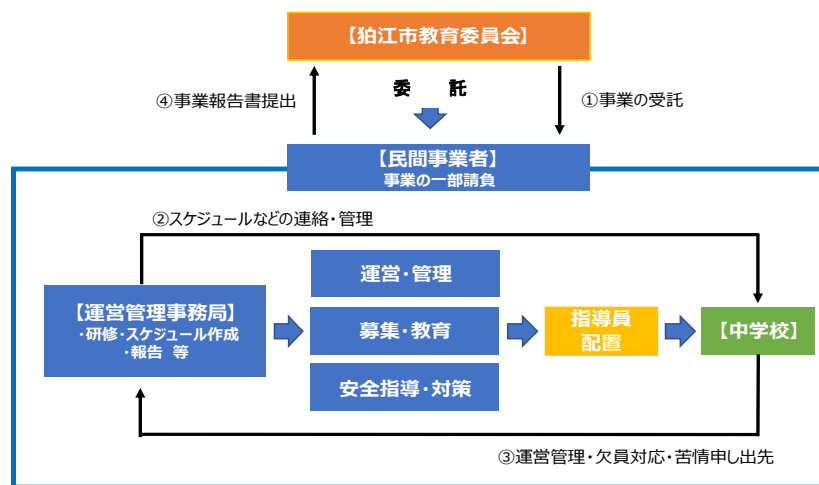
●取組事項の概要

- ・野球部とハンドボール部を実証事業の対象部活動に選び、民間企業に委託する形で学校部活動から切り離れた地域クラブとして試行的に運営した。
- ・野球部は4校の合同部活動として狛江第一中学校を拠点校に練習・試合を行い、指導者は顧問の兼職兼業により実施した。
- ・ハンドボール部は狛江第一中学校のみに存在する部活動で、他校からも参加者を募った（結果0人）。指導者は民間企業が地域人材を雇用して実施した。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・単独ではチームを組むことができなかった野球部について、教員の兼職兼業のもと合同部活動化したことにより、試合への参加など生徒の活動が保証できた。
- ・教育委員会、学校、委託事業者それぞれの役割や責任の所在を仕様書に明記して民間企業と契約し、トラブルなく終了したことで将来的な礎を作れた。
- ・アンケートにより、保護者負担は4割程度が無料で6割程度が有料（うち1回につき500円の割合多）が妥当と考えていることを把握することができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：地域スポーツ団体等運営型（民間スポーツ事業者運営型）
- (2) 運営主体：リーフラス株式会社
- (3) 種目：野球、ハンドボール
- (4) 指導者の主な属性：野球：教師の兼職兼業
ハンドボール：民間スポーツ事業者に属する指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：種目ごとに月3回程度
- (6) 主な活動場所：狛江市立狛江第一中学校校庭
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：なし
- (7) 1人あたりの保険料：○賠償責任保険
3,020円（延べ生徒数1,240人）
○団体総合保障（傷害保険）
363,050円（延べ生徒数1,240人）